

# 都市医師会長プロフィール

## 江別医師会

### 品田 佳秀 先生



江別医師会の新会長に品田佳秀先生が就任いたしましたのでご紹介いたします。品田先生は1972年弘前大学医学部を卒業され、同年北大第一外科に入局。幌南病院外科医長、北大第一外科助手を経て1987年医療法人溪和会江別病院を設立し、理事長・院長に就任されました。江別医師会においては、1992年理事、2000年から副会長を歴任され、本年4月会長に選ばれました。

品田先生のお人柄は外科医にふさわしく明確で毅然とした態度と、その笑顔ですべてを包み込む優しさを併せ持つ魅力ある先生です。

「単に臓器別に患者さんを診るのではなく、疾患を抱えた人を診る医療を心がけ、地域のいのちを支える完結型の医療の実現を目指す」と明確なビジョンを掲げ、医療レベルの向上を常に追い求めておられます。2004年には日本医療機能評価機構の認定病院、厚生労働省認定臨床研修病院に指定されるという快挙をなされています。

また、病診連携をととても大切にされているため、患者さんはもちろんのこと一般開業医にも絶大な信頼があります。「開業医の発展なくして病院の発展なし」と常々語られ、会うたびに「何か病診連携で不都合はありませんか？」と聞いてくださり、いつも無理なお願ひばかりをしている者として恐縮な限りであります。

先生の趣味はゴルフと釣りですが、医師会長の公務、また病院評価再認定の取得のため多忙を極められ、現在趣味に興じる時間はなさそうです。

最後に私事ではありますが、私がまだ大学の医局に在籍していたころ、父の胃癌の手術を執刀してくださったのが品田先生で、それが先生との初めての出会いでありました。現在同じ医師会に属し地域の患者さんのため共に働けることに感謝しております。

北海道医報通信員  
江別医師会副会長 平賀 俊尚

## 函館市医師会

### 伊藤 丈雄 先生



伊藤丈雄先生は、函館市医師会の理事を平成8年から3期、副会長を平成14年から3期務め、本年4月、第10代の会長に就任されました。また、平成15年から北海道医師会の代議員であり、平成17年4月から平成19年3月まで副議長、平成19年4月からは議長を務めております。

先生は昭和21年のお生まれで喜茂別町出身、高校2年時に函館ラ・サール高校（3回生）へ編入、下宿生活を送られました。昭和47年札幌医科大学を卒業され、同大脳神経外科教室入局、市立函館病院脳神経外科勤務の後、昭和62年医療法人函館新都市病院を開設、平成10年医療法人雄心会函館新都市病院と名称を変更いたしました。開設当初から、脳神経外科領域における急性期から社会復帰までの一貫した「良質かつ適切な医療を最良の環境で提供できる病院を目指して」を理念として掲げております。

さて、会長就任の挨拶では、崩壊の危機に瀕している日本の医療制度を抜本的に改革するため、個々の会員の力を結集し、地方から発信し中央を動かす必要性を訴えております。また、函館市医師会は「医師会病院」「健診検査センター」「看護専門学校」「夜間急病センター」の附属四大事業を運営しており、それぞれ重要な役割と課題を抱えているところですが、執行部一丸となって会員の権利を守り、地域医療の充実のため邁進すると述べております。

先生のお人柄は、身長187cm、体重97kgの屈強な体格とは裏腹に、大変温厚で冷静沈着であると拝察しております。その上、社会全般に関して博識であり、山 英昭前会長時代の最大の事業でありました、平成16年の附属看護高等専門学校・医師会館併設新築移転工事、ならびに平成18年の医師会病院増改修工事の際には副会長として、建築坪単価から総工事費の想定、業者選定から入札の駆け引き、福祉医療機構・ふるさと融資の利用、銀行金利の交渉、さらには建築資材の高騰を予測し鉄骨をキープするなど、その博識を遺憾無く発揮され事業を成功へと導きました。このように、博学多識で実行力のある新会長でありますので、会員一同の期待も大きな所ですが、ご健康には十分留意されることを結びにお願い申し上げます。

函館市医師会副会長 竹田 公一

## 北部桧山医師会

### 本郷 友徳 先生



平成20年4月の定期総会で、前会長の岩間峯先生の後任として本郷友徳先生が新会長に就任されました。

本郷先生は昭和20年に美唄市でお生まれです。北海道大学第一外科の医局員として道内各地で勤務された後、平成5年から現在のせたな町立国保病院（旧北檜山町立国保病院）に勤務され、平成12年からは院長としてご多忙な日々を送っていらっしゃいます。

先生は「無趣味」と公言されており、それだけ仕事に対する情熱は人一倍強いものがあります。現病院に着任されたころは、月に18回の当直をされたこともあるそうです。

平成17年9月には、北檜山・大成・瀬棚の旧3町が合併して、せたな町が誕生しました。その後、新町の保健福祉医療のあり方を検討するための医療対策協議会が開催された際に、先生は地域医療を守るための発言を重ねられ、今後の方向性を明確に示されました。

そして、19年4月からは3つの町立医療機関のトップとなり、幅広い人脈を通じて町立病院における眼科や整形外科の専門外来を開設するなど、リーダーシップを発揮されています。

最後に、当医師会はせたな町と今金町からなる小規模な医師会ですが、講演会活動は毎月のように実施しており、救急当番など会員同士の連携も図っております。「なかなか、メタボの解消は難しいよ」とおっしゃっておりますが、どうぞご健康には留意されて、ますます活躍されますよう祈念してご紹介とさせていただきます。

北海道医報通信員 吉岡 和晃

## 空知医師会

### 小泉 洌 先生



空知医師会としては、平成10年4月より16年3月まで3期6年間会長を務めた小泉先生に再登場願うこととなりました。余人に替え難しという言葉は、私の一番気に入らない言葉ではありますが、空知医師会の中核を成す砂川市にとって、この言葉は小泉先生のためにあると言ってよい。

先生は現在、砂川市福祉複合施設（ケアハウス・ピンネシリ、福祉会老人デイサービスセンター、老人保健施設一みやかわの三つを束ねた広大なもの）の理事長。それと特別養護老人ホーム福寿園、在宅老人デイサービスセンターの理事長をされ多くの職員と入所者を管理されています。おまけに理事長の報酬はゼロの全くのボランティア、その上これらの施設を建てた費用何十億円の保証の判まで押しているというから驚くほかない。その上、砂川の有志が砂川にぜひ婚礼もできるシティーホテルをという熱意で建てた砂川パークホテルの社長（これも報酬ゼロ）として本業の医師以外の仕事にも情熱を傾けています。

その上先生の健康といえば、一昨年直腸の大手術をされたが、その後経過は極めて良好で、薬飲みのみ、ついでに酒もそれなりに飲んで、食欲も戻り、一時学生時代に戻った体重ももとのメタボ状態に（ごめんさい）、つい最近の検査でも転移その他全く異常ないとこのことで、鬼神も避けるその精神力、免疫力を見てほった次第です。

先生は北大医33期（32年卒）学生時代は超ハンサムで長身痩躯、社交ダンスの名手でそのアルバイトで生活できたとも聞いています。卒業後、衛生学の教室に入り、そのまま大人しくしていれば教授となって衛生学の大家だったのですが、時の教授と衝突して飛び出し、縁あって砂川で開業医の道歩んだ気骨の人でもあります。

有り余る才能を持った先生としては、この方が返って幸せでなかったかなと思っています。それにしても今年より後期高齢者に仲間入りされた先生の、このバイタリティーは何処からくるのか、何時も不思議に思っています。

それにしてもいま砂川市は、市立病院の大新築の問題を控え、医師会、市立病院、市当局、一般市民、と難しい問題が山積しています、まだ病み上がりの先生に全てを押し付けるのは心苦しく、何とか皆で支えていきたいと思っている次第です。

北海道医報通信員

空知医師会副会長 小林 公民

美幌医師会

工藤 康生 先生



本年4月の美幌医師会定時総会にて、4期務められました前会長の平間道昭先生の後任として工藤康生先生が満場一致で新会長に選出されました。

工藤先生は北里大学消化器外科講師を退任され、平成6年に美幌町内に消化器科・外科を中心に開業されました。消化器科専門医として町内開業医の中心的役割をなされ、美幌医師会では、理事、副会長等の要職を歴任し前平間会長の右腕として、竹を割ったようなご性格上その行動力を遺憾なく発揮され、その手腕を高く評価されこのたび新会長に推挙されました。

先生は筋肉質の大柄な体格通りのサバサバした面

と、繊細な気配りができるという両面を併せ持ち、そのお人柄は全会員に慕われております。また健康面にも大変気を使われ早朝のウォーキングは欠かさず、大好きなゴルフはハンディキャップ8とプロ並みの腕前です。

医師会長に就任されてからは、従来の理事会から拡大理事会へと会議参加メンバーを拡大するなど、より広範囲にわたる医師会会員の意見を取り入れるよう改正し、また、新制度である後期高齢者医療や特定健康診断の対処法等自ら率先して調べられ、会員に道標を提示して下さるなどリーダーとしての指導力を発揮されております。

政府の医療費削減政策により医療不景気といわれるこの時代に会長に就任され、激務のため、ゴルフプレーもままならないとは思いますが、どうか健康に留意されながら全会員の先頭に立たれ、ご活躍されますようご期待申し上げます。

北海道医報通信員

美幌医師会理事 田島 慎哉

## 報告

### 高橋知事 来訪

去る7月3日、高橋はるみ北海道知事が高橋保健福祉部長とともに来所され、長瀬会長、三宅・宮本・畑副会長が応接した。

知事は、日頃からの保健・医療・福祉行政への協力を謝辞を述べられ、特にこのたびの「北海道洞爺湖サミット」にかかわる現地および札幌地区での救急体制の構築と、本誌7月号附録でお知らせした「緊急臨時的医師派遣事業」について深い感謝を表された。

医師派遣については、昨年知事選において公約に掲げて当選。本年2月に予算化、20年度道政執行方針演説でもこの事業を強調されていた。



当会では、道の相当数の委員会・審議会等に役員が分担して参画している。北海道の地域医療の充実のため、今後とも積極的に意見具申してまいりたい。

今回の訪問は知事からのお申し出によるものであった。ご多忙の中、わざわざのお越しに御礼申し上げます。次第である。